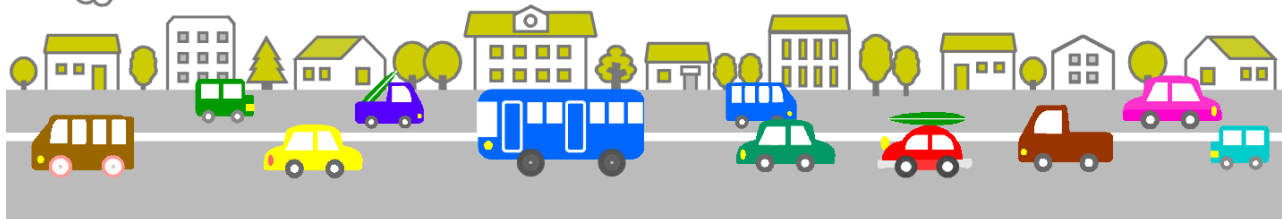


住民が参加して



地域の「くらしの足」をつくろう！ ワークショップニュース



主催：認定NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク TEL:045-534-6718
共催：逗子市環境都市課 TEL:046-873-1111(内線:456)

テーマ

- 1) 地区の地域交通の現状と課題を知る
- 2) 「地域交通開発マップ」を通して地域交通のスタイルを考える

7月28日(月)、逗子市商工会館にて、「第1回地域のくらしの足をつくろう！」ワークショップを開催しました。今回は24名にお集まりいただき、4グループに分かれて検討していただきました。

本事業は国土交通省「交通空白」解消リ・デザイン事業の採択を受けて、NPO法人かながわ移動サービスネットワークが逗子市と共催で開催しています。地域の課題を住民自らが発見し仲間を集め、地域に合った移動支援の仕組みづくりを目指します。

最初にグループごとに「こんな地域交通があったらいいネ！」を自己紹介カードに書き、紹介していただきました。

次に、逗子市の地域交通サービスの成果と現状の課題について説明しました。続いて、これまでかながわ移動サービスネットワークが住民主体で作り上げてきた地域交通サービスの多様性について報告しました。

その後、地区内に住む人がどのような地域交通サービスを必要としているかを、大きな地図に可視化して、全体場で共有しました。

その結果を踏まえ、この地域に相応しい地域交通のスタイルについて旗揚げアンケートでお聞きし、意見交換を行いました。

最後に感想カードをご記入いただき、ワークショップを終了しました。

次回は、この地域にとって本当に役に立つコミュニティバスの運行ルートと、それを補う地域交通スタイルについて検討していきます。皆さまお誘いの上、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

ワークショップ全体の流れ

- | 1 | 2026
7/28(月) | <テーマ>
◆地区の地域交通の現状と課題を知る
◆地域交通課題マップを通して考える |
|---|-----------------|---|
| 2 | 2026
8/24(月) | <テーマ>
◆地域に合った地域交通のスタイルを検討
◆定時定路線のバスルートを提案 |
| 3 | 2026
9/18(金) | <テーマ>
◆実現に向けた仲間づくりと活動づくり |

第1回プログラム

- ステップ1：はじめに
- ステップ2：自己紹介
- ステップ3：逗子市でできること、住民のできることの整理
- ステップ4：『地域交通課題マップ』作り
- ステップ5：『地域交通課題マップ』を共有
- ステップ6：地域交通のスタイルを考えよう
- ステップ7：まとめ

全体のワークショップの様子



※本ニュースに掲載している、当日参加者の皆さまにご記入いただいた内容については、内容の趣旨を尊重するため、明らかな誤字を除き、原文のまま掲載しています。

自己紹介「こんな地域交通があったらいいネ！」

自己紹介カード「こんな地域交通があったらいいネ！」を書いていただきました。大きな地図のお住まいの場所にシールを貼り、それぞれの自己紹介カードを順番に紹介していただきました。

- 高齢者、障がい者、赤ちゃん連れのお母さんたちが安心して利用出来るバスがあったらいいねえ
- 逗子は細い道が多いため、細い道も通れるバスがあったら良い。近いの住民と乗り合わせできるタクシーなどの仕組みがあると良い。
- 人口の増減にかかわらず、みんなが気軽に使える移動手段が定着するといいですね。
- いくつになっても行きたい場所に気軽に行ける足があったらいい（費用、手続きを出来るだけかけず…）。
- 高齢化で買い物が出来ない独居の人々が増えています。住み易い環境を模索したいです（移動販売をもっと欲しい…）
- ヨークマートが買い物バスを出してくれたら。
- ワンボックスカー。巡回。バス停までの乗り物。
- 京急バスがアーデンヒルに乗り入れ、逗子や東逗子、田浦と公共交通で結んでほしい。神武寺駅にもつながりたい。乗りやすい、人に優しい駅ですので。公共交通が入っていない為、将来の引っ越しを考えている人ばかり。街として続いて育ってほしい。
- アザリエ地区から沼間、桜山へ定期的、予約不要。時間帯は午前10～12時、午後1～3時。ルートは神武寺トンネルー神武寺山門入口ーJR東逗子駅にこだわらない。アザリエを巡回し、池子十字路ー第一公園前ーセブーンイレブンーヨークフードー東逗子整形外科医院。車を持っていない。乗り合いバスー小型14人乗り。30分1本。
- ハイエースのような車で東逗子駅→アザリエ地区→ヨークマートの定期的な足があればと思います。
- 東逗子までの坂道、JR側から池子にもどる上り坂が、東逗子側へ行く事をためらわせるので…。
- 自宅から目的地へ移動できる手段（病院、買い物etc.）。自動運転など。
- 1. 電動三輪バイク、トゥクトゥク 2. 送迎サービス 3. 市内循環バス。福祉バスのもっと充実したもの。タクシー乗り合い。
- ミニバス。×オンデマンドタクシー
- 最近、逗子ー田浦間のバス本数が少なくなり不便です。
- 小坪へ直接行きたい。JR逗子駅で乗り換えるのではなく、JR東逗子駅から乗れるといいかな。グリーンヒル発でもいいか。
- アーデンヒルにバスが通っていない。病気の時に南共済迄のバスが欲しい。神武寺迄のバスが欲しい。
- 最寄りのバス停から東逗子駅まで手軽に便利で移動できる地域交通があるといいです。
- アザリエ⇄東逗子までワンボックス等の車が有るといいネ。
- 本当にニーズをくみあげて、維持管理を続けていけるシステムを実行してほしい。タクシー券でも良いのではないかな？
- 葉山在住です。場違いでした。すみません。



会場から質問

Q どうして池子と沼間が対象になっているのか、経緯を教えてください。逗子の中では、これが初めての取り組みですか？今後、他の地域でもやっていくという考え方ですか？

A 清水：市民懇談会で沼間や池子の方から課題を直接聞き、市にご相談して今日の運びとなりました。どういう形が自分たちの地域に合っているかを話していく中で、沼間は沼間で、池子は池子でという話になるかもしれないし、一緒に同じ資源を使う方が活動が進みやすいということになるかもしれない、これはふたを開けてみないと分かりません。

これは逗子では初めての取り組みです。今後、市の中で広がったらいと思いますが、どうなるかは分かりません。

逗子市のできることと住民のできことを整理

逗子市の地域交通サービスの成果と現状の課題について説明しました。その後、移動ネットが住民主体で作り上げてきた地域交通サービスの多様性について報告しました。



逗子市地域公共交通交通計画の検討経過について

逗子市の取り組みと現状

- 令和5～6年度に収集した定性データをベースに庁内アンケート等で実態を把握。
- 令和7年度から、新たに公共交通計画を立てるべくデータ分析や調査を実施している。

公共交通のカバー圏域

- 逗子市には公共交通のカバー圏域（鉄道駅から800m以内、バス停から300m以内）から外れる地域は限定的ではあるが存在する。
- 高低差が大きい、バスの便数が少ない等、バスの利用の難しい地域も存在する。

市民アンケートの結果から

- 70代の8割、80歳以上の過半数が700m以上の距離を歩行可能と回答したが、移動制約者に着目すると車いす利用者の8割、杖や手押しカート使用者の約6割が300m以下が歩行の限界と回答。
- 75～79歳の4割以上、80歳以上の6割以上が何らかの移動制約がある。
- 70代の6割程度、80歳以上の9割弱が免許がない、持っていても運転することが少ないと回答。

地域公共交通の目指す姿

現状把握

個別の「おでかけ」ニーズに既存の公共交通が対応できていない

- ・地形的制約（坂道、狭隘道路）や身体的制約により、バス等でカバーできない「おでかけ」が存在

「おでかけ」が自家用車に依存しておりまとまった移動需要を円滑・効率的に運びきれていない

- ・通勤通学、駅周辺での活動、観光やイベント等によるまとまった需要も自家用車で個別に輸送

地域交通を持続的に運営するための基盤が整っていない

- ・運転手不足、人口減少等により、サービスを続けていく体制確保が困難



地域公共交通の目指す姿

①地域公共交通までの「あと一步」を支え、誰もが気兼ねなく「おでかけ」できるまち

- ・移動に制約がある人も含め、安心して外出や社会参加できる環境を作る

②使いやすい地域公共交通で「おでかけ」がもっと楽しくなるまち

- ・自家用車でなくても「おでかけ」がもっと楽しくなる環境を作る

③「おでかけ」を支えるしくみを安定して続けられるまち

- ・住民、利用者、交通事業者、行政、その他関係者全員協力し合い持続的に「おでかけ」を支える体制を築く



住民参加でつくる地域のくらしの足

取り組む地域が増える背景

- 高齢化（70歳代後半から増加）
 - ・免許返納等、マイカーの所持が困難
 - ・運動機能、体力の低下で外出が難しくなる
 - ・独居・高齢夫婦世帯が増え、家族に頼れない、認知症当事者になる人が増えてくる
- 地域交通の衰退&地元商店の撤退
 - ・バスなど基幹交通の減便や路線廃止
 - ・地域の商店がなくなる（郊外大型店舗への集約）

全国の買物弱者=900万人
農林水産省の推計（2024/03）

1位	神奈川県	60万8000人
2位	大阪府	53万5000人
3位	東京都	53万1000人

買物弱者は過疎地
の問題ではない

なぜ住民参加型なのか？

- バス事業者の事情
 - ・道が狭くバスが通れない、採算がとれない
 - ・運転手不足で走らせられない
- 住民の現状
 - ・バス停まで行けない、乗り降りが難しいなど、現状の公共交通では出かけられない。
 - ・地域で困りごとを解決する方法は？

2007年 神奈川県との協働事業
「住民がつくる地域交通づくり・まちづくり」の
伴走支援に取り組む

- ・現在では、県内で約50のグループが活動し、その支援(研修や学習会など)を行う
- ・綾瀬市、相模原市、海老名市の事業を受託し活動団体を創出している

道路運送法による区分

許可が必要

- バス、タクシー

登録が必要

自家用有償旅客運送 2006～

- ①交通空白地有償運送 タクシーが営業しない地域などで住民全体を対象にNPO等が行う
- ②福祉有償運送 障害者手帳保有者、要介護・要支援認定者、透析患者等を対象にNPO等が行う
※非営利の範囲で運賃OK

事例の紹介

①新磯おでかけサポートわ・わ・わ（相模原市）

個別支援+のりあい買い物ツアー

- 2020年～ 勉強会発足
- 2022年～ マイカーでの通院や買い物支援
社会福祉法人の車輛で月2回、
買い物ツアーを実施

②逗子ハイランド(逗子市)

のりあい買い物ツアー

- 2015年～ 週2回の買い物支援活動
社会福祉法人百鷗・清寿苑の車輛からを車輛を提供
歩いてスーパーまで来られる人を対象にスーパーから自宅へ送る支援

③菊名おでかけバス（横浜市）

定時定路線ルート型

- 2011年～ 1日7便 週1回の定期運行
1周45分（9.5km）

④のりあい（大和市）

定時定路線ルート型

- 2010年～ 市民が運転、添乗、運行管理
市は協働事業として応援
- 2017年～ 市の公共交通の一つとして運行

⑤交通事業者との連携

デマンドタクシー/あいのりタクシー

- ・サロンや買い物など、地域で集まってみんなでタクシーに乗り合う形
- ・岐阜や軽井沢で実施中
- ・あいのりの仕組みをつくるのはとても難しい



許可・登録が不要

- 地域福祉の観点から住民たちが互助の精神でつくる移動・外出手段
※運賃は受け取れない

- 制度① 無償の運送
- 制度② 生活支援サービスとの一体型
- 制度③ サロン送迎・施設送迎
- 制度④ 地縁団体が行う送迎

『地域交通課題マップ』

ご自身のお住まいの場所にシールを貼り、自己紹介をしていただいた後、誰がどんな公共交通を必要としているか、地域の交通課題をマップにまとめていただきました

1グループ

～凡例～



●どんな地域公共交通が必要か

※行動範囲は逗子

市役所
市への問い合わせの為

OK 買物

小坪海岸
海まると参加したい

高齢者センターのバスが
少なくなっている

東逗子整形に
通う人多い

沼4→ヨークマート
買い物が遠くて大変
坂、バス無し

Iさん
肩が痛く動けない
買物できない
アザリエから買物

アーデンからOK、ヨーク
マート、逗子駅、東逗子駅
に行くバス



2グループ

～凡例～



●どんな地域公共交通が必要か

東逗子まで行く
バスがない

根倉(スーパー)がなくなった
移動スーパーは20円/品で高い

道が細いので
バスが通れない

医者に通いたい
リハビリ、整形などは歩くの
が困難な時あり

ヨークマートに
バスを出してもらう
(地域貢献として)

アーデン
・医者に行くタクシーを呼んでも
来なかったり値段が高い
・買い物 杖について不便

・バス減便で不便
引越しも考えている
・減便が集客を更に減らす
・アーデンと助け合いたい
という人が多い



3グループ

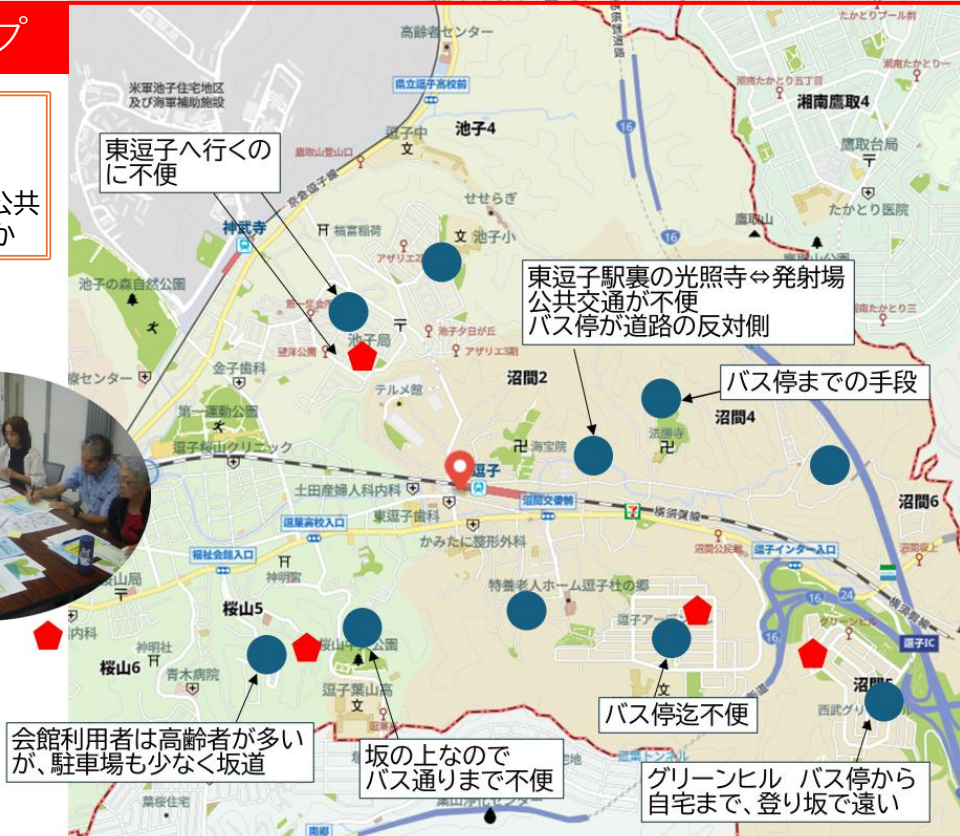
～凡例～



自宅



どんな地域公共交通が必要か



4グループ

～凡例～



自宅



どんな地域公共交通が必要か



急坂
近くにスーパーがない

山道しかない 急
買い物、通院
たこたこ坂

東逗子整形に
行くのが大変

バス停まで歩く
店がない

急な坂道

すごい坂

バスがない

グリーンヒル
バスが減便された



<1グループの発表から>

- 市内の西地区への移動は直通がなく乗り換えが不便。時間が合わない、2倍の運賃が掛かるという懸念が解消されれば乗り換えも可。
- 東逗子と神武寺間の周回バスがあると便利。
- 坂道が多く基幹となる鉄道やバスの接続が大変なので改善されると使い勝手が良くなる。
- アーデンヒルから神武寺に行くバスがあれば利便性が高まる。



1グループ

<2グループの発表から>

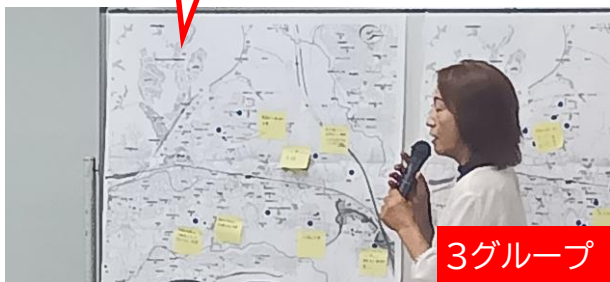
- グループ内にアザリエとアーデンヒルからの参加者がいた。
- アザリエ団地には移動スーパーがあるが手数料がかかる。買い物への意見が多かった。
- アーデンヒルはバスが通っていないので、何かしらの交通手段があった方がいい、駅周辺を回るバスがあれば嬉しいという話があった。
- 買い物が生命線、ヨークマートさんにも移動スーパーや宅配をしてもらいたい。



2グループ

<3グループの発表から>

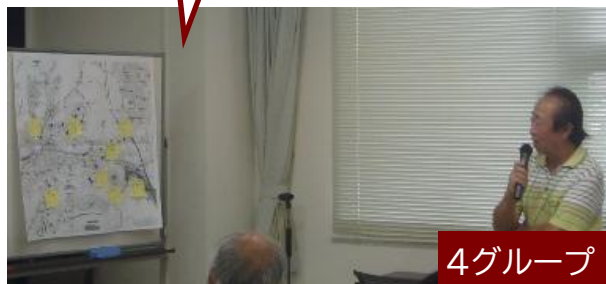
- 山坂を抱えている池子、沼間地域としての課題は、やはり山から下って買い物や病院に行くところ。既存のバス停まで何で行くかが課題。特に東逗子駅裏の水道道は道が狭いので、バスは考えられない。
- どちら側も谷戸が多いので、狭い道でも乗り降りできるような車で、みんなでそれに乗り合いができて、東逗子や逗子、京急で横浜に出られる、出かけられる状況になればいい。



3グループ

<4グループの発表から>

- アザリエ地区は山道が多く買い物が大変。
- アーデンヒルはミニバスもないので、通院の不便さを非常に感じている。
- アザリエから東逗子整形外科に行くには、ミニバスに乗って逗子、逗子から田浦行きのバスに乗らないといけない。帰りは田浦から来る1時間に1本のバスを待たないといけない
- どのエリアも買い物以上に通院に対する不便を感じている。



4グループ



かながわ移動サービスネットワーク
清水理事長

買い物に特化するのか、駅周辺に行くために誰もが乗れるものなのか、どちらの優先順位が高いのか。
高齢者の移動についての視点が発表では聞かれなかったので、どんなサポートが必要なのか議論していただけたらと感じました。

この地域にあった地域交通のスタイルを考えよう

選択肢の中で、この地域に相応しい地域交通のスタイルだと思うものを一つ選び、番号札を掲げていただきました。その結果について、全体で意見交換をしました。

① 予約不要 誰でも乗れる、定時定路線のルート型運行が良いと思う。	12
② 要予約 通院や買い物など一人一人の外出ニーズに応えられる個別支援型の運行が良いと思う。	4
③ 要予約 できるだけ各戸を巡回して、みんなで乗り合って目的地(東逗子駅やスーパー)へ向かう買い物巡回便が良いと思う。	2
④ 要予約 集合場所からみんなで乗り合って地域内と目的地(東逗子駅やスーパーなど)を結ぶ直行便の買い物ツアー便が良いと思う。	1
⑤ その他	4

⑤を選んで

参加者1：私は買い物をメインにした③の逆をイメージしている。坂の上から降りるのは荷物もないし歩くことは健康にいいので、まずスーパーに行く。重たいものを持って坂を上がるのは大変なので、スーパーから各戸に運ぶシステムがいいと思う。

参加者2：個人のニーズによっていろんな形がある。常時、予約を受けないといけないし、運転手の確保も必要。運行管理もとても難しい。ネット社会で動かなくても解決できるアプローチもあるし、いろんなやり方があると思うので、交通パターンの問題だけでは解決できないのではないかと思います⑤を選んだ。

参加者3：アーデンヒルに30年以上住んでいる。今回のチラシがアーデンヒルにもグリーンヒルにも行き渡っていなかった。グリーンヒルの人はバスの減便と値上げに心細い思いをしている。逗子には素敵な住宅街がたくさんあるのに、支援が届かないために町が衰退の危機にある。➤

➤ このままでは年をとったら引っ越さないといけなくなるのではないかと。南共済や横須賀共済に行くバスなど、大きな図式を市には描いていただきたい。アーデンヒルにはバスが来ていないがバスのテスト運行の際に舗装や街路樹の問題、バス停の位置などで揉めて通らなかった。ミニバスのときも話がまとまらなかったが、今は高齢化して免許を返納する方も多いので、違う展開があるのではないかと思います。市や議員にも入ってもらい大きな図面の描き直し、京急に撤退されない検討と、地域内での細かな温かな助け合いの両立をお願いしたい。

参加者4：①～④、どれも行政や他の支援を前提にしないと維持管理できないような選択肢だと思った。逗子にはそんなことができる行政の力はないので、地域または民間で、他力本願という考え方を私たち自身がまず脱却しないといけないと思う。

④を選んで

参加者5：いろんな意見が出ている中、逗子市の体力で実現可能かつ継続的にやれる可能性が高いという観点で④に手を挙げた。

③を選んで

参加者6：各戸を回るのが、利用者がやりたいことのできる手段だと思った。

①を選んで

参加者7：逗子の住民は考え方がばらばらなので、まとめるのは難しい。実際、老人会で企画をしても人が集まらない。何か目的を持って地域でやるものに対して、みんなが賛同することも少ない。この会の情報自体、町内会から下ろしていないという話もある。その状況でボランティアを立ち上げるのはかなり困難。定時路線は周知して分かっているので動きやすいが成功するハードルは高い。過去に試しにやったが、周知徹底されずうまくいかなかった。①に近づけるようにどうやって皆さんで組んでいくか、地域が一つにならないといけない。公共交通機関、例えば京急はまず無理で、もっと減便される可能性もあると思う。厳しいことを住民が意見を共有して、どうするかを考えないと難しい。町内会に入っていないでもいいから横つながりをとにかくつくること。逗子には各自治会のトップが集まる住民協の場があるので、もっと住民協で強力に進めれば動くと思う。



参加者8：消去法で①を選んだ。アザリエの乗車率が下がって経営上難しいという話を聞いてショックを受けた一方で、市として何とかする努力をしているのか、本当にその方向で行っていいのだろうか。逗子市が今後発展していくことを考えると、公共サービスを現状がこうだから仕方ない、ボランティアでやるという考えに動かなければ、それは長期的に考えた場合非常にまずいことになるのではないかと思う。アザリエの問題に関して言えば、もっとしっかりやっていただきたい。またお年寄りに対する助成のシステムがうまく機能しているのか。回数乗らないとペイしないような設定であれば当然、乗る人は減っていくわけで、アザリエのミニバスが活用される施策を打たれているか心配になる。それもしっかりやっていきながら、どうしても補えないところはボランティアで検討していくことが必要だし、相互に強調してやっていくことは必要だと思う。市にはぜひ将来計画をきちんと考えて、公共サービスをどのように充実させていくかを常に考え続けていただきたい。

感想カード

ワークショップに参加して感じたことや言い足りなかったことなど、自由に書いていただきました。

もっと多くの人と話合いたい

- 身近な場所で開いてほしい。暑い時期、遠くだと参加が難しい。今回の開催情報が各自治会や住民に届いていなかったのが残念。地域の市の掲示板に1ヶ月以上前から掲示するとか、自治会に直接お願いすることが住民に情報が届くことにつながります。宜しくお願いします。住民がもっと参加し助け合えることを願っています。今回の開催、有難うございました。
- 住民主導で移動ネットワークを作ることが最終的なゴールになれば良いと思っていたが、試行錯誤しながら自分ごととしてとらえてもらう必要があると改めて思いました。もっと移動に困っている方々の生の声があると説得力があると感じました。包括でもワークショップの周知をしていきます。
- アーデンの方と話し合う機会を作り、又参加したいと思いました。又2回目も参加したいです。
- 本日は色々とみなさんのお話を聞いて、逗子は元気な高齢者が多いと感じました。みなさんの意見もバラバラなので、今後、共感を得ることと、この案件を大切に思っていたく人を増やす事が重要だと思いました。
- ボランティア等で送迎することもよいかもしれないけれど、地域力を上げて地域で助け合えるようにしていくことも大切なのは…？昔の隣り組、おせっかい、そういう事が今の時代に足らなくて、ボランティアだけで回していくのでは地域に広げていくことはできない気がします。

市に対するご意見

- ボランティア活動はすばらしい。行政に対する圧力になる。行政はボランティアにまかせるのではなく、市の発展の為に何をすべきか、しっかり考え行動していただきたいです。
- 弱者の為に考えよう。市役所の中の色々な課で、住民の声から方向性を話し合っておいてほしい。住民はじちかいを通して話をすすめていく必要がある。
- 皆さん、これ迄不便を感じているのに、今迄このような会合が行われなかったのは不思議ですし、逗子市は無責任の一言につきます。
- 市に負担を掛けさせるわけにはいかないとと思うが、ボランティアに頼る、ボランティアにやらせておけばいいという態度は市はやめてほしい。大きな負担になると思いますが、それを我々市民は期待しております。次回、必ず参加します。

参考になった

- アンケートの結果などから逗子市の現状が良く分かりました。アザリエの人口減少の率に比べ、バスの利用者が大幅に減っている事に関しては、原因を追及した方が交通の課題が見えるのではないかと思います。また買い物にフォーカスしがちですが、通院など、ご自身が移動しないとまかなえない事にもフォーカスする事が大切かと考えました。色々な意見がお伺いできて、良く分かりました。ありがとうございました。
- 実態が非常にリアルに感じる事ができ、大変勉強になりました。これまで他の自治体で実施した結果を踏まえて、逗子市に合った形を探していきたいと思います（逗子に近い背景の地域事例を知りたいです）。
- いろいろな意見が聞けて参考になりました。

事務局より

みなさま、本日はご参加いただきありがとうございました。たくさんの意見がでて、皆さんが地域の困りごとを自分事として考えている様子がわかりました。あと2回のワークショップで、「おでかけができるまち」にするためには何ができるか、一緒に考えていきたいと思っています。

何とか実現させたい

- 地域の問題は他市のNPO法人などではなく、逗子市のNPO法人や菊池タクシーさん、清寿苑さん等関係各所の参加していただき、もっと実現性のある話し合いの場としてほしい。皆市民は貴重な時間を使って、本当に重大な課題としてとらえているので、3回話し合いができましたね、いい機会でしたねで終わらず、無理してでも改善を、解決策にたどり着くワークショップにつなげていただきたいと思います。
- 自分の住んでいる地域の価値を上げる手段を増やしていく、その1つが交通の便の向上と思っている。地域のコミュニティを作る手段として、乗合バスの活用も良い手段と思うので、何とかしても運行にこぎつけたい。
- 持続可能なプランは逗子市の規模の人口、予算、道路混雑など考えると、行政をあてにしたものは考えない方が良くと思う。とてもチャレンジングなワークショップを準備して下さり感謝しています。これだけは自力ではできないものは何かを、個人で考えるきっかけになりました。
- ステップ6のアンケートについて、選択条件が限定的なので、逗子にあてはめるイメージをしづらと思う。また第一回の開催で方向性をくくるのは早いと思うが、地域交通というくくりをある程度は前提とした方が良くと思う。
- 自分が住んでいるアザリエ地区は坂の上にあるので、東逗子へ行くには坂を下るだけなのでいいが、帰りは坂を登るので荷物が多い場合や高齢者が不便なので、ワンボックスの乗合があれば便利になると思う。
- 自分の意見に同意する人が多いことを感じた。自分の希望が聞き入れてもらえたと思う。実現するかどうか不安ではあるが。
- 問題解決の方法を「地域交通」だけに絞らず、多角的に考えてみたいですね。個人個人や家族毎に悩みは別ですから。移動販売等もっと活性化すべきかと思います。
- 許可、登録を要しない運送の4つの制度のなかでうまく活用できないか考えていきたい。

